

◆授業のポイント◆

- ・ 深い学びを実現できる授業づくりの工夫
- ・ 対話的な学びを通して、考えに広がりや深まりが生まれる手立ての工夫
- ・ 見通しと振り返りの充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

社会科学学習指導案（公民的分野）

学 級 3年1組(男子21人,女子15人,計36人)
場 所 3年1組教室(本校舎3階)
授業者 教諭 前田 明 宏

1 単元 私たちの暮らしと経済

2 単元について

本単元は、主として個人、企業及び国や地方公共団体の経済活動を扱い、消費生活を中心に経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などの仕組みや働きなどを理解できるようにすること、個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすること、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢化における社会保障の充実・安定化、消費者の保護などの市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察できるようにすること、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることなどを主なねらいとしている。特に経済に関する内容の学習については、なぜそのような仕組みがあるのか、どのような役割を果たしているのかということを理解できるようにしたり、経済活動が我々の社会生活にあらゆる面で密接な関わりをもっていることを踏まえたりしながら、今日の経済活動に関する諸課題について注目し、主権者として、よりよい社会の構築に向けて、その課題を解決しようとする力を養うことが大切である。

本学級の生徒は、標準的な学力を有しており（4月に実施したNRTの偏差値平均が51.8）、地理分野よりも歴史的分野を得意としている。年度初めと比べて、現在は多くの生徒が発言できる活気ある学級となっている。社会科に対する興味関心は高く、「生活の記録」や普段の生活で社会科に関する記述や会話をする生徒は多い。その一方で、ペアや班での話合いに積極的に参加することが難しく、個別の支援を必要としている生徒も見られる。また、複数の資料を関連付けて論理的に考えることは苦手としている生徒が多く、資料の活用を求められる定期テスト問題の正答率も低い傾向にあるため、今後、複数の資料を関連させて考えさせる授業を通して改善していかなければならない。

指導に当たっては、経済に関する様々な事象や課題を捉え、考察、構想する際の概念的な枠組みとして対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目したり関連付けたりして、経済に関する様々な事象などを理解できるようにしたり、合意形成や社会参画を視野に入れながら、経済に関する課題の解決に向けて多面的・多角的に考察、構想できるようにする。さらに、理解した内容や考察、構想した過程や結果について、その妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現できるように指導する。本単元では、「日本経済の重要課題は何だろうか。その課題を解決するためにはどうすべきだろうか。」という単元を通じた学習課題を設定し、「消費者主権の実現」、「企業の発展と社会的責任の遂行」、「雇用形態と労働条件の改善」、「景気対策と財政赤字の改善」、「持続可能な発展」について、どの課題がより深刻で解決が急務なのか根拠を基に順位づけし、その課題を解決するための手立てを具体的に考える活動を通して、今日の経済活動に関する諸課題について着目し、主権者としてよりよい社会の構築に向けて、その課題を解決しようとする力を養う。その際、それぞれ考えた順位やその理由、解決策についてペアや班、学級で意見交換をしたり、思考を可視化するためにヒトデチャートを活用したりすることを通して、経済に関する学習の内容（仕組み・役割・諸課題等）について考えを広げ、深めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 身近で具体的な事例、さまざまな情報手段を通して、経済活動や市場経済の意義や生産・流通・消費、価格の決め方、金融の働き、雇用問題、租税と財政、社会保障といった経済のおおまかな仕組みや役割、課題等を理解し、その知識を身に付けることができる。（知識及び技能）
- (2) 日本経済の課題（経済活動における選択、雇用と労働条件、国民生活と福祉の向上等）にはどのようなものがあるのか、その課題を解決するために私たちに来ることは何か、根拠を基に考察し、表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 見通しを立てて経済に関する学習をすすめ、日本経済の課題とその解決策について考察し続けることによって、考えが広がり、深まったことを実感することができる。（学びに向かう力・人間性等）

4 単元の「知識の構造図」

中心概念	<p>企業の第一の目的は利益の追求だが、消費者や労働者、環境等のための社会的責任も負う。資本主義経済のひずみを解消するために、国や地方公共団体に任されている役割があり、持続可能な発展のためには国民が果たすべき役割も多い。</p>
	<p>経済とは、生産と消費という活動を通じて暮らしを豊かにする仕組みである。消費者が売り手に対して不利な立場になることがあり、消費者主権を実現するためには国や地方公共団体が消費者の権利を補償したり消費者が自立したりすることが重要である。株式の発行によって資金を集める株式会社などは、流通の合理化や需要量と供給量が一致した均衡価格の設定等によって利益の確保を目指している。また、資本主義経済では使用者に対して労働者が不利な立場で働くことが多かったため、ワーク・ライフ・バランスの実現をめざしている。</p>
	<p>市場での売買は、貨幣を使って行われており、資金が不足している人と余裕がある人との間でお金を融通している。資本主義経済では景気変動が見られるため、日本政府が財政政策をしたり、日本銀行が金融政策をしたりして経済の安定成長を目指している。また、少子高齢化が進行し社会保障のさらなる充実が求められているが、財政赤字が深刻になってきており、租税収入の在り方や政府の役割・福祉政策が注目されている。今後、日本が持続可能な発展を続けるためには労使関係の改善、公害の防止、グローバル化の進展とその対応、格差社会の是正等、我々に課せられている課題は多い。</p>

	消費生活と経済	生産と労働	価格の働きと金融	政府の役割と国民の福祉	これからの経済と社会
具体的知識	<ul style="list-style-type: none"> 所得、時間、土地、情報など限られた条件下において、価格を考慮しつつ選択を行うという経済活動がなされている。 企業は消費者の安全や、消費との取引における公正さを確保するなどの責務があり、消費者も自らの利益の擁護及び増進のために自立した消費者になることが期待されている 	<ul style="list-style-type: none"> 財やサービスを作り出す生産が、家計によって提供される労働やその他の資源を投入して企業を中心に行われている。 企業は利潤（利益）を追求するとともに人々が必要とする安心で安全な財やサービスを生産する。 労働基準法や組合の働きが、労働者が人たるに値する生活を営むための最低基準を定め、労働者を保護しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場における財やサービスの取引が貨幣を通して行われている。 価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わって、人的・物的資源を効率よく配分する働きがある。 金融機関が仲介する間接金融と、株式や証券などを発行して直接資金を集める直接金融がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資本が多く経済活動を円滑に進めるための必要な基礎的施設として、間接的に経済の発展に役立っている。 財政が社会資本の整備や外交、防衛などの公共財の提供などによって、将来世代を含め、持続可能な社会の実現に資する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在及び将来の国民の健康で文化的な生活に寄与するとともに人類の福祉に貢献するためには、環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図ることが重要である。 経済活動が我々の社会生活に密接な関わりをもっている。
用語	<ul style="list-style-type: none"> 経済 消費支出 所得 貯蓄 消費者主権 契約 契約自由の原則 消費者問題 製造物責任法 消費者基本法 商業 流通の合理化 	<ul style="list-style-type: none"> 労働三法 非正規労働者 企業の社会的責任 労働組合 ワーク・ライフ・バランス 株式会社 株主総会 株価 資本主義経済 利潤 資本 公企業 大企業 配当 	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済 需要量 供給量 均衡価格 市場価格 寡占 独占価格 独占禁止法 直接金融 間接金融 預金通貨 日本銀行 金融政策 景気変動 物価 	<ul style="list-style-type: none"> 予算 歳入 歳出 国税 地方税 直接税 間接税 累進課税 社会資本 財政政策 社会保障 	<ul style="list-style-type: none"> 公害 住民運動 環境基本法 循環型社会 為替相場 円安 円高 産業の空洞化 国内総生産

単学

元

習

を

通

課

し

た

題

5 単元の指導計画（全 22 時間）

小 単 元	時	主題	学習目標	重点的に使用する能力					
				知識及 び技能	思考力, 判断力, 表現力等		学びに向かう 力, 人間性等		
					情報活 用力	論理的 思考力	協働す る力	課題発 見力	メタ認 知
		気付き S1: コンビニエンスストアをどこに開店したらいいのかな? 経済の学習って面白そう。日本経済の課題についても知りたい!							
消 費 生 活 と 経 済	1	コンビニエンスストアの経営者になってみよう(本時)	どこにコンビニエンスストアを開店したらよいか, 四つの資料を関連付けて多面的・多角的に考察し, 根拠をもとに表現することができる。	○	○	○		○	
	単元の学習内容への関心を高め, 単元を通じた学習課題を設定する段階								
	2	私たちの消費生活	実際の消費活動を通して, 消費者が商品やサービスを購入する際, おのずと選択の原理がはたらいっていることに気づく。	○					
	3	契約と消費生活	契約をめぐる消費者の問題について多面的・多角的に考察する。	○					
	4	消費者の権利を守るために	消費者を保護する意義や消費者の権利を守るために行われていることについて理解する。			○			
「消費者主権の実現」に関する課題と対策について考察する段階									
5	消費生活を支える流通	流通に関わる業者の役割や, 流通業者が抱えている合理化の課題について考察する。		○	○	○			
生 産 と 労 働	6	資本主義経済と企業	企業の目的から資本主義経済の大まかな特徴を理解する。	○					
	7	株式会社の仕組みと企業の社会的責任	株式会社の仕組みを理解し, 企業の役割と社会的責任について考察する。			○	○		
	「企業の発展と社会的責任の遂行」に関する課題と対策について考察する段階								
	8	労働の意義と労働者の権利	勤労の権利と義務, 労働組合の意義及び労働基準法の本質について理解する。	○				○	
9	働きやすい職場を築くために	社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し, 表現する。	○	○					
「雇用形態と労働条件の改善」に関する課題と対策について考察する段階									
価 格 の 働 き と	10	市場経済の仕組み	市場経済における価格の決め方と役割について, 多面的・多角的に考察する。	○	○	○	○		
	11	価格の働き	市場における価格の働きについて多面的・多角的に考察する。	○	○				
	12	貨幣の役割と金融	金融機関が仲介する間接金融と, 株式や債券などを発行して直接資金を集める直接金融を扱い, 金融の仕組みや働きを理解する。		○				

金融	13	私たちの生活と金融機関	金融機関が家庭生活や企業活動の中で仲立ちをしていることを理解する。	○	○			
	14	景気と金融政策	景気変動はわたしたちの生活にどのような影響を与え、それに対して日本銀行はどのような対策を行っているのか考察する。		○	○	○	
政府の役割と国民の福祉	15	私たちの生活と財政	財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○		
	16	政府の役割と財政の課題	財政の働きを理解するとともに、資料の読み取りを通して財政の課題について考察する。	○	○	○	○	
				「景気対策と財政赤字の改善」に関する課題と対策について考察する段階				
国民の福祉	17	社会保障の仕組み	社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度の概略を理解する。		○			
	18	少子高齢化と財政	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか、社会保障制度に触れながら、税の負担者として自分の将来と関わらせて、税制度について考察する。		○	○	○	
これからの経済と社会	19	公害の防止と環境の保全	環境を守るためにはどうしたらよいか、またどんな関わりや行動ができるかについて、多面的・多角的に考察する。				○	
	20	グローバル化する日本経済	経済の国際化は国内経済にも大きな影響があることを、円高・円安に触れて理解する。	○	○	○	○	
社会	21	豊かさと経済	市場の働きに委ねることが難しい諸問題について、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	○	○			
	22	日本経済の課題と解決策	今日の経済活動に関する諸課題について着目し、主権者として、よりよい社会の構築に向けて、その課題を解決しようとする力を養う。	○	○	○	○	○
				「持続可能な発展」に関する課題と対策について考察する段階				

納得

S 2 : 日本がこれから持続可能な発展をしていくためには、消費者や労働者に優しい社会を実現するために企業が努力し、合理化やグローバル化をより一層進めて利益も出さないといけない。そのためには財政政策等による国の支援も必要だ。日本は少子高齢社会によって財政赤字が深刻なので、私も納税の義務を果たすなど責任ある行動をしないとイケない。

意志

S 3 : 日本経済には多くの課題があるけど、その素晴らしさもよくわかった。この単元の学習を通して考えたことを、これからの生活でも生かしていきたい！

6 単元におけるルーブリック

レベル	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力・人間性等
	概要「②情報活用力」と主に関連	概要「③論理的思考力」「④協働する力」と主に関連	概要「①課題発見力」「⑤メタ認知」と主に関連
4	日本経済の課題とその具体策について考えるために、私たちの暮らしと経済の特色に関する複数の資料を比較したり、分類したり、関連付けたりしている。	日本経済の課題について、多面的・多角的な視点から分析し、筋道立てて解決策を考え、自分の意見を主張しつつ、異なる意見の良さを生かして、よりよい考えをつくり出している。	日本や身近な地域の経済的な課題を自ら発見し、既習の学習を生かしてよりよい解決を図ろうとしている。
3	私たちの暮らしと経済の特色を知るために集めた資料の中から、日本経済の課題を浮き彫りにできる資料を選択している。	日本経済の課題と解決策について、お互いの考えの共通点、相違点を比較したり分類したり関連付けたりして、自分の考えとその根拠や理由をわかりやすい言葉や方法を用いて説明している。	授業で学習する日本経済の課題を身近な地域の実態と関連付けて考え、新たな気付きや疑問をもとうとしている。
2	私たちの暮らしと経済の特色を知るための資料を複数収集している。	日本経済の課題と解決策について、自らの考えについて根拠を基に説明し、お互いの考えの共通点や相違点を見いだしている。	日本経済の課題と解決策を探るための見通しをもち、自らの学習の過程を振り返ろうとしている。
1	私たちの暮らしと経済の特色を知るためにはどのような資料が必要か考えている。	日本経済の課題と解決策について、根拠を基に、他者に自分の考えを伝えている。	学習課題を的確に把握し、できたことや分かったことを自らの言葉でまとめようとしている。

7 本時の実際 (1/22)

(1) 題材 私たちの暮らしと経済

(2) 目標 集めた情報の中から、自分に必要なものを取り出したり、整理したりすることができる。

(知識及び技能)

(3) 授業設計上の工夫

ア 深い学びを実現できる授業づくり・・・**研究の視点1**

「単元の『知識の構造図』」→「単元の指導計画」→「単元におけるルーブリック」の順で単元全体の学習内容を確認・見通した上で「単元を通した学習課題」を設定した。逆向きの授業設計をしたことで、単元のねらいだけでなく、本時のねらいが明確になった。教科書にある複数の資料を根拠にして「コンビニエンスストアをどこに开店させるか」について個人や班、学級全体で考え、経営者の視点から、「どのようにしたら社会に貢献したり利益を出したりできるのか」についての考えを広げ、深めさせたい。

イ 対話的な学びを通して、考えに広がりや深まりが生まれる手立ての工夫・・・**研究の視点2**

実生活と関連し、考える視点に沿った生徒の関心を高めることができる資料を提示（伊敷中学校校区的コンビニエンスストアの場所を示した地図）した後に、教科書の資料「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」を扱う。「売上高に占める各商品の割合」、「利用客の年齢別割合」、「一人の利用客が利用する頻度」、「一日平均の客数・客単価・売上高」の四つの資料から「コンビニエンスストアの利用者は、毎週、ファストフードや加工食を500～1000円程度で購入する中高年の割合が高い」という特色を捉えさせ、コンビニエンスストアの开店場所を判断させる。資料を効果的に活用できていない個人や班に対しては、「根拠はあるの?」、「小学生もよく買い物をしているの?それは想像?事実?」、「イベントは毎日開かれるのかな?資料から読み取れる?」などと切り返し、資料を使って考えざるを得ない状況をつくる。終末では「この四つの資料以外にどのような資料があったら、よりの確に判断できるか」を考えさせ、資料活用に関する創造力を高めさせたい。

ウ 見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫・・・**研究の視点3**

身近な地域の地図を活用したり、最適解を探ったりする活動を通して、「経済の学習は楽しい」、「もっと学びたい。考えたい」と思わせる授業を目指す。本単元の学習の流れについて見通しを立て、五つの具体的な課題例を提示し、経営者の視点だけでなく、過疎地域にあるコンビニエンスストアが果たしている役割を考える活動を通して消費者や労働者の視点も与え、「日本経済の重要課題は何だろうか」という単元を通した学習課題に対する自分の考えをまとめさせる。本時を含め、単元を通して思考ツール「ヒトデチャート」を活用したOLBシートへの記入をしていくことで学びに継続性をもたせたい。

(4) 授業の流れ

過程	時間	形態	主な学習内容	指導上の留意点
導入	5分	一斉ペア	1 伊敷中校区の地図を見せ、どこの場所にあるコンビニエンスストアが魅力的か予想させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">コンビニエンスストアをどこに开店すればいいだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実生活に関連する資料を提示することで、発言しやすい雰囲気をつくるようにする。 ・ 消費者の立場から考えていることに気付かせる。
展開	8分	個別	2 教科書の地図・立地・留意点を見て、自分がコンビニエンスストアの経営者だったら、どこに开店するか個人で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「売上高にせめる各商品の割合」、「経営者の年齢別割合」、「一人の利用客が利用する頻度」、「一日平均の客数・客単価・平均売上高」の四つの資料を関連付けて考えるようにする。
	25分	班	3 班で考えを整理し、意見交換・発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の資料を関連して考えているのか切り返しの発問を通して気付かせるようにする。 「理由は一つ？倒産しない？」 「どのように結び付いているの？」 「どの資料を基にした発表？」 ・ 吹き出しシートに班の考えを記入させる。
	5分	個別	4 より的確な判断をするためには、四つの資料以外にもどのような資料があったら効果的なのか考える。 5 過疎地に立地したコンビニエンスストアの魅力について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地価、賃貸代、建築費用、具体的な交通量、近隣地域の人口等の視点をもたせ、考えを広げるようにする。 ・ 高齢の消費者、雇用の確保等の魅力に気付かせる。
終末	7分	一斉	6 今後の学習の流れを確認し、OLBシートに単元を通した学習課題に対する自分の考えを記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">②情報活用力 レベル3 集めた情報の中から、自分に必要なものを取り出したり、整理したりすることができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画の21時で五つの課題と具体策、解決すべき優先順位について考え、指導計画の22時に結論を出すことを理解させるようにする。 ・ ヒトデチャートを活用して思考を整理することを紹介するようにする。